

## 中間評価論文要旨

## カナダ・社会科におけるシティズンシップの育成原理

## — アルバータ州を事例として —

坪田 益美\*

## 1. 問題の所在・研究の目的と方法

グローバルな相互依存や国境を越えた関わりが密になる中で、多様な民主主義社会を実現する市民の育成は、国際的にシティズンシップ教育が共有する大きな課題の一つである。ジョシー（2004）によれば、ケベックの独立問題等を抱えるカナダでは、1990年代後半から、文化的・民族的の差異を前提として保持しつつ、実質的な社会的・経済的不平等の是正に取り組む多様な民主主義社会を実現するため、社会的結束（social cohesion）が注目されるようになってきている。その中でも、アルバータ州が社会科の目標として社会的結束を明示したことは注目に値する。特に、多様性が安定的な民主主義社会の障害となるという従来の多文化主義批判に対して、多様性の尊重によって維持する社会的結束こそが多様な社会をまとめ、安定的に維持するために不可欠な要素となるということを明示している点で重要である。

近年、カナダのシティズンシップ教育の動向は、日本においては大岡（2005）、岸田（2007）などによって、今までも研究がなされてきた。これらは主に移民に対して行われるいわゆる市民権のための教育や、制度及び政策を中心的に論じたものであり、学校教育や社会科の分析にまでは踏み込んではいない。社会科の内容に関して具体的に言及したのものとしては、オンタリオ州の公民科（Civics）を事例に、多様性と合意形成を志向する市民像とその学習内容・方法を具体的に論じた拙稿（2005）がある。しかし、そこでの主な視点は多様性への配慮であり、一方の結束への視点に立つ分析は不十分であった。そこで本研究では、社会的結束という概念を整理し、シティズンシップを定式化し直すとともに、その育成原理を明らかにすることを目的とした。

この目的を達成するために、本研究では次の方法を採用した。第一に、カナダに

---

※社会科教育学

において求められている社会的結束の概念に基づいてシティズンシップを捉え直すことを通して、従来のシティズンシップ教育の課題を克服する視点を明らかにした。第二に、カナダおよびアルバータ州におけるシティズンシップ教育としての社会科の取り組みとその歴史的な展開を概観し、現在の社会科におけるシティズンシップ育成の方向性を明らかにした。第三に、第一で提示した分析観点から、アルバータ州の社会科を事例として、K-G12の学習の段階と具体的な学習目標・内容・方法を分析することを通して、社会的結束に基づくシティズンシップの育成原理を明らかにした。

## 2. 論文の構成

序章 はじめに

第一章 社会的結束を求めるカナダのシティズンシップ教育

第一節 シティズンシップ教育における社会的結束への注目

第二節 カナダにおけるシティズンシップ教育の課題

第三節 社会的結束によるシティズンシップ教育の可能性

第二章 カナダ・アルバータ州のシティズンシップ教育における社会科の役割

第一節 連邦政府によるシティズンシップ教育への取り組み

第二節 アルバータ州における社会科カリキュラムの開発

第三節 社会科カリキュラムにおけるシティズンシップ育成の展開と段階

第三章 アルバータ州・社会科における学習目標・内容・方法の分析—10学年を事例に

第一節 カリキュラムにおけるシティズンシップを育成する学習目標

第二節 10学年用教科書におけるシティズンシップの育成

第四章 シティズンシップの育成原理

第一節 シティズンシップの教育における社会的結束の役割

第二節 シティズンシップの育成原理

終章 おわりに

## 3. 論文の概要

第一章では、カナダのシティズンシップ教育が直面している課題を明らかにし、そこにおいて求められる社会的結束の概念整理を行った。テイラー（1991）によ

れば、新自由主義的な社会の要請を受けた教育の結果、カナダ社会はアトム化し、市民の政治的主体性が失われつつある。さらに、国家統合強化を目指した『カナダ自由と権利の憲章』をすべてのカナダ人に一律に適用しようとしたことが、逆にケベックの分離主義などを高揚させる結果を招き、崩壊の危機を迎えている。従来のシティズンシップ教育は、国家などの制度的枠組みや権力、あるいは民族や文化といった同質性に拠る国民形成か、または個人の権利を最優位に置く自由主義的な市民形成かという二項対立的な観点から捉えることによって、これらの問題を引き起こしてきた。それに対して、社会的結束という概念が提示するのは、市民一人ひとりの社会の構成員としての責任や役割の自覚によって協働で運営される社会を構想した一つの方法である。それは、従来のように社会そのものに求心力を求めるのではなく、他者との間に協力関係を築き、互いにとってよりよい社会を創り上げていくプロセスにおいて信頼やパートナーシップを生み出し、市民間を結びつける絆としていく構想である。ジェンソン（1998）は、その社会的結束の概念について、四つの公的文書の比較分析から五つの側面を析出している。ここではこれらを、市民的責任を自覚するための「所属」、市民的態度としての差異の「承認」とその規準としての「包摂」と「正当性」、市民的行動としての「参加」とし、カリキュラムおよび学習目標・内容・方法の分析観点として措定した。

第二章では、カナダのシティズンシップ教育において社会科が中核的な役割を担っていることと、特にアルバータ州がシティズンシップの育成を重視した社会科を展開してきていることを明らかにした。そのアルバータ州の2003年度以降の社会科カリキュラムの特徴の一つとして挙げられるのが、カナダで唯一社会的結束を明確に社会科の目標として明示していることである。生徒たちが他者との関係性の中で彼ら自身について学習することを重視し、多様性と結束に価値を置く社会における市民として機能する手助けをすることが、本社会科のねらいであるとされている。カリキュラムは、K-G12までを通した学習展開から、大別して「知る」段階である前期と、「わかり、考察する」段階である後期の二つに分類できる。そして前期にあたるK-G9の全体像からは、①差異を前提とした市民観を形成する段階、②差異を前提とした相互作用としての社会観（カナダ観）を形成する段階、③所属意識の強化ならびに参加意欲を喚起する段階、という社会的結束を促す次の三つの段階的な目標観を析出した。後期は、この段階を適宜繰り返し、応用する学習が展開される期間となる。

第三章では、10学年のカリキュラムおよび教科書を事例として、想定されている具体的な学習目標・内容・方法を分析した。10学年の鍵となるテーマは「我々はグローバル化をどこまで容認すべきか？」であり、後期の中でも10学年のカリキュラム及び教科書からは、グローバル化により益々多様化する社会の中で、ナショナリズムの高揚による統一ではなく、多様性の寛容を重視することによって不干渉を志向させる相対主義でもなく、多様性に基づくカナダという共同体や社会的結束の必要性、重要性などの価値認識を促す学習内容及び方法が特徴的に析出できた。

まずはカリキュラムの成果規準の分析から、一点目として「差異や固有性をめぐる問題において主体的な意思の存在を重視する」、二点目として「相互依存と社会の影響力を強調・明示する」、三点目として「他者理解を基盤として差異の調整スキルを習熟させる」という学習目標・内容の構成原理を析出した。次に、これらの項目に沿って教科書を分析し、具体的な学習内容・方法について以下の点を明らかにした。

一点目についてはグローバル化が否定的に働いているケースの事例として、「人びとの主体的な意思に関わらず与えられている社会変化」を提示する。そのことが、いかに人びとを苦しめ、あるいは闘争へ向かわせるかということを知ることを通して、生徒たちに差異や固有性、個々の独自の考えや生き方などについて、主体的な意思の存在を尊重する重要性を認識させる。これが、「承認」という市民的態度において「包摂」・「正当性」を保障する判断規準となるものと言える。

二点目については、個々の主体的な意思を無視してさまざまな圧力や威力を持って、自身を含めた人びとの生活にすでにさまざまな変化をもたらしている大きな社会の存在について理解することで、一人ひとりが主体的な意思の存在を主張していくことが必要なのだという認識に至らせる。そしてこのことを通して、生徒一人ひとりが、すでに相互作用という社会の中に取り込まれているという認識を醸成し、社会の一員としての自覚を促していくのである。

三点目については、そうした主体的な意思を尊重する必要性および重要性を認識することで、差異を承認した上で調整していく必要があるという価値を共有させる。そしてそのために、互いに合意形成を志向していく必要があるということを学習させるとともに、グループ学習とそこにおける合意形成を求める学習活動をより多く設定することにより、スキルの習熟を図るのである。

第四章では、本研究で明らかにしたシティズンシップの育成原理について総括した。まず、社会的結束という概念に基づいて措定した観点から K-G12の学習展開を分析して明らかにしたことは、次のような学習段階と配列である。まず、K-G9までの間を基礎的な知識・理解を徹底する期間とし、その中で第一段階では市民観、第二段階で社会観、第三段階で共生への実践的方法をそれぞれ獲得させていく。G10-G12はこれらの知識・理解をもとに応用し、理解を深め、価値判断する学習を展開するという配列である。K-G9の三段階を適宜繰り返し応用する後期の10学年に想定される学習から析出したのは、「承認」の規準として主体的な意思を重視すること、「所属」の自覚および参加の必要性について、自身と他者、および様々な社会との相即不離な関係性やその影響力を理解させ、「承認」および「参加」のスキルとして他者理解を通じた差異を調整する合意形成のスキルを習熟させるという学習内容の構成原理である。

社会的結束という概念に基づいて析出したこれらの配列ならびに学習の構成原理から、本研究が明らかにしたシティズンシップの育成原理とは、市民社会を、常に相対する他者との間に創り上げていく関係性そのものとして認識させ、そうした市民社会観によって、相互作用の関係にあるあらゆる他者が、社会のメンバーでありパートナーであるという市民観を醸成することである。それは、生徒たちに「市民になる」のではなく、「市民である」ことを自覚させるとともに、異なる他者をも同じく「市民である」と認識させることで、個々の多元性と市民意識をより促進し得る。その原理に基づいて学習段階ならびに学習目標・内容・方法を構成することで、まず認識の部分で市民であることの自覚を促し、異なる他者を仲間として認識することを可能にし、そのことが、実際に多様な他者と協力的な関係性を築く主体性を促進することにつながるのである。

#### 4. 今後の課題

本研究では、シティズンシップ教育の新たな可能性を拓くものとして、社会的結束という概念を肯定的に捉えた上で、その社会的結束という概念に基づくシティズンシップの育成原理を明らかにした。しかし、社会的結束の是非については論争的な問題であり、シティズンシップ教育における社会的結束概念の意義ならびに有効性をより明確にするためには、その否定的な側面や限界についても言及する必要がある。したがって、社会的結束を賛否両面から捉えるとともに、実際

の授業や効果についても検討することで、シティズンシップ教育における社会的結束概念の意義と限界について明らかにしていくことを今後の課題とする。

## 5. 主要参考文献

- 大岡栄美 (2005) 『『市民性』をめぐるナショナリズムとグローバリズムの交錯—カナダにおけるシティズンシップ週間プロジェクトを中心に』 山本信人編著『多文化世界における市民意識の比較研究 市民社会をめぐる言説と動態』 慶応義塾大学出版会, 177-196頁。
- 坪田益美 (2005) 「カナダ・オンタリオ州 Civics における市民性教育—多様性の尊重と合意形成の視点から—」, 日本公民教育学会編『公民教育研究 Vol. 13』 1-15頁。
- 岸田由美 (2007) 「カナダ—『多文化』と『社会』をつなぐ教育」, 嶺井明子編著『世界のシティズンシップ教育—グローバル時代の国民/市民形成—』, 東信堂, 108-120頁。
- Taylor, C. (1991). Shared and Divergent Values. In Watts, R. and Brown, D. (eds.). *Options for a New Canada*. Toronto: Univ. of Toronto Press. pp. 53-76.
- Jenson, J. (1998). *Mapping Social Cohesion: The State of Canadian Research*. Ottawa: Canadian Policy Research Networks Ink.
- Joshee, R. (2004). Citizenship and Multicultural Education in Canada. In James A. Banks(ed.). *Diversity and Citizenship Education: Global perspectives*. pp. 127-156. San Francisco: Jossey-Bass.
- Alberta Education. (2005). *Social Studies Kindergarten to Grade 12 Program of Studies*. Retrieved Nov. 10. 2007 from [http://www.education.gov.ab.ca/k\\_12/curriculum/bysubject/social.pdf](http://www.education.gov.ab.ca/k_12/curriculum/bysubject/social.pdf).
- Perry-Globa, P. et.al. (2007). *Perspectives on Globalization*. Don Mills: Oxford University Press Canada.